

10月3日(土曜日)「主の弟子たる者は」

【新改訳 2017】

ルカ 9.18-27

「イエスは、みなの方に言われた。『だれでもわたしについて来たいと思いうなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。』」(23節)

主はここで、本当に主について来たいと思う者に対して、非常に厳しいことばを語っておられます。このおことばは、私たちの信仰のもう1つの試金石です。

まず、真にイエスを自分の救い主キリストと信じるという者は、自分の意思で判断しつつ、ついて来なさいと言われていきます。また、その道は、自己保身や自己憐憫のそれではなく、自分を捨て(正しく理解する必要あり)、日々自分の十字架を負って(同様に)、主に従っていくことを意味するものです。

主がご自身を捨てて十字架を負われたのは、神のみこころを行うためだったことを覚えましょう(ヘブル12・2、ピリピ2・5-9)。本当の信仰は、自分の好みや一時的な感情で、教会や集会を自由に移り歩くような信仰ではないのです。

～祈り～

主イエスさま。あなたのおことばを受け入れ、聞き従う者であ
らせてください。どうか、このおことばを正しく受け止め、みこ
ころに沿う歩みができますように。

【学びのために】

本文にもあるように、この主のおことばは、私たちの信仰の程
度や質を試すものです。いや、主は、私たちがこの信仰になる
ことを望んでおられるのです。信仰は趣味ではありません。自
分の人生を真実に生きようとする真剣勝負とも言うべき生き
方なのです。